KUTSUROGI−TIME vol.37 Summer

くつろぎたいむ

松江赤十字病院広報誌 第37号（2011年 夏号）

■病院理念

松江赤十字病院は、地域の
中核医療機関として、
「高度」「良質」「公正」な
医療を提供します。

かかりつけ医を持つことになった理由（わけ）は？

～紹介状と外来受診についてのお願い～

地域医療連携課長 齊藤 文章

近頃「病院への受診の仕方がよく分からない」、「紹介状がありますか、と問われることが多くなった」などご批判をよく耳にするようになりました。また「自分は昔から日赤に通っていたのに、かかりつけ医を持つように言われた。かかりつけ医は日赤だと思っている」というお声も。本当にそのとおりだと実感しておりますが、次のような事情がございます。

そもそも10年くらい前から「病院には緊急を要する場合や病気が重くなったときに受診し、慢性的な経過にある状態や経過観察などあまり緊急を要する状態ではないときはできる限りかかりつけの先生にまずかかりましょう」と言いだしたのは国の提案からでした。ところが、当時の様子を振り返ってみますと、当院でも外来・救急外来には多くの患者さんが受診し、診察が終わる頃には日が暮れていることもたびたびであったように聞いています。そのうえ、医師は入院患者さんの診察や緊急の呼び出し、緊急手術に追われ、看護師は日中いろいろな患者さんの看護に追われ、疲れがたまっていく一方であったのではないかと思います。このような環境はけっして望まれるものではないし、また、勤務する医師も増えなくなってきました。「こんな状態が続けば病院ももたない。病院がもたなければ命も救えない。このような状況から脱するには専門的な治療を行う病院と普段の健康を維持するかかりつけの先生と2人の主治医をもち（患者さんが自ら主体的に病気と闘っていくという気持ちが強ければ3人の主治医といえるかも知れません）、患者さんを地域で支えていきましょう」と言うこれも国からの提案で今のようなやり方になりました。もちろんかかりつけの先生方もたくさんの患者さんを毎日診察しておられ、大変さに変わりはありませんが、今後も高齢化の影響で患者さんは増えていくように思われます。その意味でも、限りある「医療」という社会資源をみんなで守り育てることが必要だと思っています。もちろん病院もかかりつけ医の先生と一緒になって健康を守っていくことが、一層求められると思います。

正直、「紹介状がないと診てもくれないのか」と言われると心が痛みますが、できればまずは、お近くのかかりつけ医の先生にご相談いただければと存じます。私ども地域医療連携課もかかりつけの先生と連携を強めるだけでなく、さまざまな形で学び合える場を今後も作りたいと考えております。

最後となりましたが、「眼科」と「精神神経科」につきましては初診の場合、紹介状のある方のみとさせていただいております。また、紹介状をお持ちの患者さんもできる限り事前にご予約をお取りいただきますようお願い申し上げます。何かとご不便をおかけいたしておりますが何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

病棟紹介

こんにちは、8階東病棟です

私たち8階東消化器センター（外科）病棟は、消化器外科という名称ですが、消化器外科だけでなく、乳腺外科の患者さんも入院される病棟です。2010年度は、1年間で消化器外科約600件、乳腺外科約100件の手術件数を数えました。月曜日から木曜日の予定手術のみにとどまらず、緊急の手術も多く、まさしく24時間いつでも緊急手術が円滑に受け入れられる体制をとっています。そして、私たちは手術前から手術後の経過に応じて切れ目のない看護ケアの提供をめざしています。

また、私たちの病棟には手術の患者さんだけでなく、化学療法や、緩和ケアの患者さんも多く入院されます。どんな状況であっても常に患者さんの状態に寄り添い、その人らしくあることを目標に患者さんや家族の方々の声が聴ける病棟をめざして日々頑張っています。

私たちの病棟では、1年間を通して4つの看護チームでの活動にも力を入れています。

周手術期チームは、手術前後の看護の向上をめざしています。乳腺チームは、乳がん看護のレベルアップを図ること、認定看護師とともに病院内外で患者さんの自立支援や乳がんの啓発活動も行っています。緩和ケアチームは、対象の患者さんが少しでも苦痛のない入院生活を送れるようカンファレンスを開いたり他職種とも連携を図っています。ストーマ（人工肛門）チームは、ストーマを造られた患者さんのケアの向上、退院後の生活スタイルにあわせ家族、ときには訪問看護師や施設の方々との連携を図っています。どのチームも、チーム内での知識の向上はもちろんですが、病棟勉強会を開催して、病棟全体の専門的看護の向上もめざして活動をしています。

今後とも、どうか8階東病棟をよろしくお願いします。

日常生活の中で小さな症状や前兆に気づき、
自分の体に関心を持つことは大切。
大きな病気のサインの場合もあり、早期治療にもつながります。
「ドクター教えて　からだ相談室」では、
当院の医師が、病気や対処法についてアドバイスします。

相談　住民検診で胸部エックス線検査を受けた結果、肺がんの疑いを指摘されました。しかし、自覚症状はなく、体調も以前と変わりません。たばこは、20歳から50歳まで1日20本吸っていました。（67歳、男性）

ドクター教えて からだ相談室 ④

今回のドクター

松江赤十字病院
呼吸器外科
磯和理貴 部長

無症状でも検査受けて

肺がんと自覚症状

アドバイス　早期の肺がんのほとんどは無症状で、がん検診や他の病気でCT（コンピューター断層撮影）検査などを受けた際に見つかるケースが多いのが特徴です。せきやたん、血たん、胸痛などの症状が出る時は既に肺がんが大きくなっている段階ですが、進行しても症状がないこともまれではありません。

肺がんの初診患者100人のうち外科的な切除が可能なのは40人で、そのうち治癒するのは20人というデータがあります。60人は手術が難しいほど、がんが進行しているということです。

日本のがんによる死亡者を部位別に、30年前と比較すると、肺がんは、肝臓がんなどとともに割合が高くなっており、死亡者数は4倍以上に増えています。今後も増加傾向が続くと予測されています。

肺がんの疑いがあれば、自覚症状がなくてもきちんと検査を受けることが大切です。胸部エックス線や胸部CTに加え、たんの中の細胞を調べる検査、組織を採取する気管支鏡検査などがあり、がん細胞を確認します。

手術は、切除範囲の狭い順に肺部分切除、肺区域切除、肺葉切除、肺摘除（全摘）に分けられます。手術後の生活を心配される人は多いですが、年齢や体格からみた標準的な肺活量がある人の場合、一般的に肺葉切除までであれば通常の生活が送れるようになります。

肺がん予防で最も重要なのは禁煙です。たばこには多くの有害な化学物質が含まれており、禁煙後の年数が増えるほど、肺がんのリスクは減少します。さらに、早期発見につなげるため、1年に1回は必ず肺がん検診を受けることが大切です。

平成21年7月8日付山陰中央新報より転載

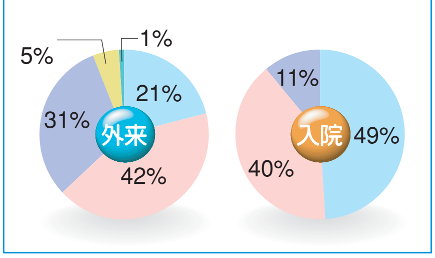
患者満足度アンケートの結果

3月に行った満足度アンケートの結果についてお知らせいたします。

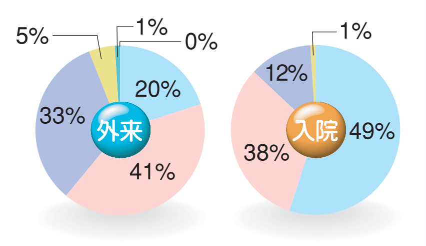
調査期間／平成23年3月7日から11日
対象者／外来患者（301名）・入院患者（284名）

非常に満足　満足　普通　やや不満　非常に不満

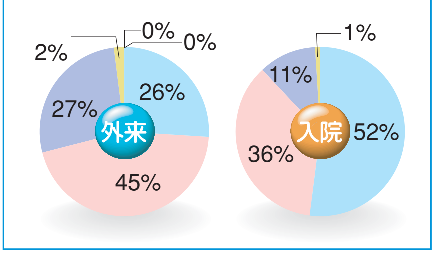
職員は挨拶をしていますか



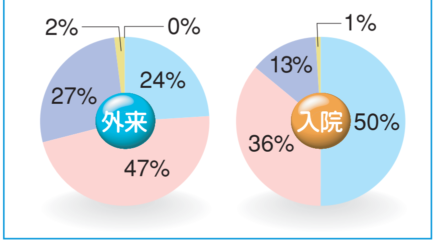
職員は笑顔で対応していますか



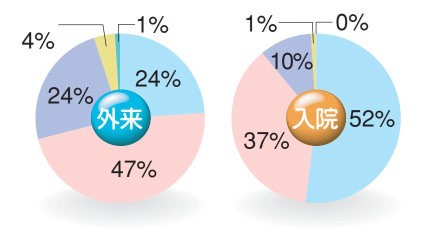
職員の言葉遣いや対応は丁寧でしたか



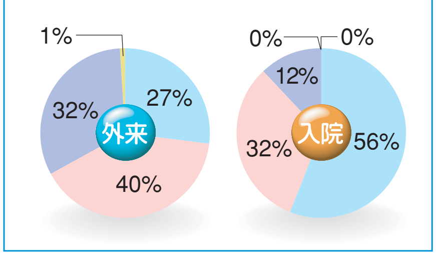
職員は分かりやすい言葉で説明をしましたか



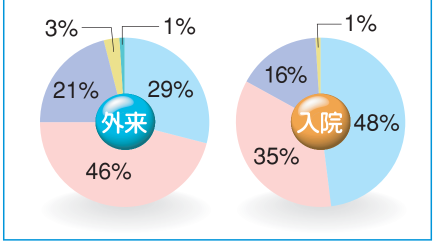
職員は患者さんの申し出や話に十分に耳を傾けましたか



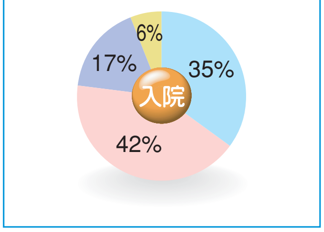
職員の身だしなみはどうでしたか



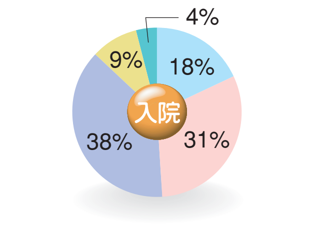
診察及び治療について納得のいくものでしたか



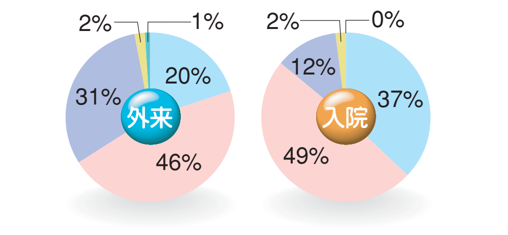
病院内の環境（機能性、清潔性、広さ、騒音等）はどうでしたか



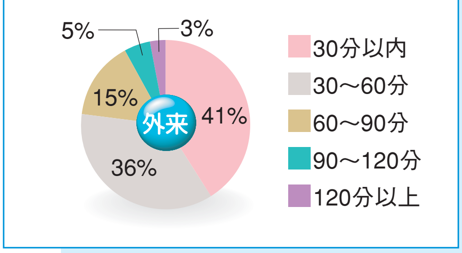
食事の献立や味はどうでしたか



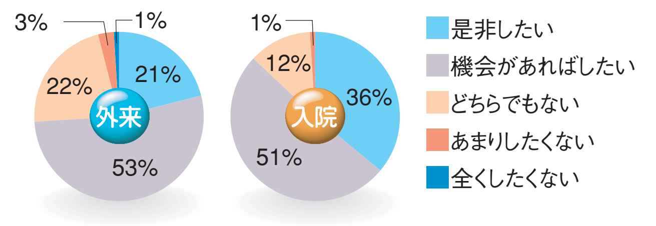
全体として松江赤十字病院に満足していますか



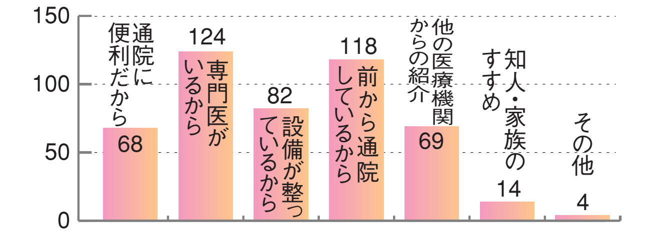
予約から診察までの待ち時間



家族や知人等に松江赤十字病院を紹介・推薦したいと思われますか



受診理由（複数回答・外来のみ）



料理の世界

「土用の丑の日」は・・・

栄養課調理師 奥野 将徳

土用の丑の日といえばうなぎ。日本人にとって馴染み深い食材ですが、天然の物は数が少なく、国産の養殖も需要に追い付かない状況です。近年は、中国、台湾、オーストラリアなどからも輸入をしています。天然のうなぎは全体に茶色っぽく、養殖のうなぎは青っぽい色をしています。昔からスタミナ源として知られるうなぎには、ビタミンA、B1、B2が豊富で疲労回復、免疫力アップ、鉄分も多いので貧血予防によく、女性にもおすすめです。

土用の丑の日にうなぎを食べる習慣を考えたのは平賀源内と言われています。需要の落ちる夏にどうにかしてほしいとうなぎ屋に頼まれ「本日は土用丑の日」と看板を出して宣伝したようです。そのおかげで丑の日には「う」のつくものを食べれば病気にならないとか、「黒いもの」を食べれば厄払いになるなど迷信のようなことで広まったようですが、うなぎは体力増強、強精食としてスタミナの必要な夏に適した魚です。土用の丑の日にうなぎを食べる習慣は、先人たちの経験に基づいた生活の知恵でもありそうです。

NEWS 赤十字救護班ニュース

3月11日発災の東日本大震災で、当院から救護班などを出動させ医療救護活動を行っています。出動した職員の数は、DMAT（災害派遣医療チーム）や救護班、こころのケア班、石巻赤十字病院支援要員など合計80名にのぼります。

5月には今年度の救護班を任命しました。任命したのは3チーム総勢24名。中には東日本大震災の救護班として出動した職員もいます。

「人間を救うのは、人間だ。」という日本赤十字社のスローガンのもと、決意を新たにしました。

空からしあわせのプレゼント 全日空からスズラン贈呈

今年も全国の日赤に全日空（ANA）からの手作りの贈り物「スズランの押し花しおり」が届きました。当院にもステキなキャビンアテンダントの方々が来てくださり、高層棟11階病棟の入院患者さんお一人おひとりに直接手渡していただきました。

しおりをもらわれた患者さんからは「きれいなしおりをありがとうございます」と感激の涙も。患者さん、キャビンアテンダントさん、みなさんが笑顔になり、スズランの花言葉どおり「しあわせ」な光景が広がりました。

全日空のみなさん本当にありがとうございました。

松江赤十字病院『患者さまの権利章典』

「医療は、患者さまと医療提供者とのお互いの信頼関係をもとに協力して作り上げていくものであり、患者さまに主体的に参加していただくことが必要です。」
このような考え方にもとづき、松江赤十字病院は、患者さまの権利や責務についてつぎのとおり表明します。

1. 患者さまには、医療提供者との相互の協力関係のもと、良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 患者さまには、診療に関して十分な説明と情報の提供を受ける権利があります。
3. 患者さまには、医療に関する説明を受けてもよく理解できなかったことについて十分理解できるまで質問する権利があります。
4. 患者さまには、医療従事者が提案する治療法に対して自らの意思で決定できる権利があります。
5. 患者さまには、診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られる権利があります。
6. 患者さまには、医療提供者に対し患者さま自身の健康に関する情報をできるだけ正確に提供する責務があります。
7. 患者さまには、病院の規則を守る責務があります。

松江赤十字病院　研修広報委員会　〒690−8506 松江市母衣町200番地 TEL（0852）24−2111 FAX（0852）31−9783
松江赤十字病院ホームページ URL http://www.matsue.jrc.or.jp/
松江赤十字病院公式ブログ「松江日赤ブログ」 URL http://blogmrch.blog112.fc2.com/